

5日間の陣痛も正面から受けとめて賜ったいのちの誕生

大西 泉・早坂 温

ニュージーランド在住

延べ5日間かかった出産 助産婦小林康乃さんと出会う

私たち夫婦は6年前、まだストーブが要るような梅雨寒の中、福島県のこの山間の過疎地に移り住んで来ました。標高500mを超える高原の村は、周囲をブナ、シラカバ、落葉松などの落葉樹に覆われ、春から秋までは、本当に天国のような所です。その代わり冬は日本でも有数の豪雪地です。四方を山に囲まれているため、積雪で冬季間は三方が通行止めになります。ビール瓶の底のような地形です。そのため良い意味でも悪い意味でも昔ながらの生活が残っています。少しずつこの地の生活に慣れた頃、私は妊娠をしました。私は妊娠・出産について友人たちに話を聞いてみることにしました。

2度病院出産をしたのち、3度目は自宅出産に踏み切った友人もいました。そこで自分でも資料や本を調べていくうちに、簡単に、ただ病院で出産すればいいということではないと気づかされました。そして、できるだけ自然なお産をするために、私たちの思いを汲み取ってくれる、助産院で生みたいと思うようになりました。それでも、私自身が高齢初産ということもあって、念のため5か月までは隣町の総合病院で検査を受けました。

ところが担当医は機械とカルテだけを見て、私たちのほうを見ることすらしないのです。検診を受けたその足で、夫と2人で同じ町内にあった中嶋助産院の門を叩きました。そこで初めてお会いした小林康乃先生は、病院の担当医とは全く違いました。お産に対する思いを熱っぽく語られ、しかもそれは、まさに我が意を得たりと、いった感じでした。診察室を出るときには2人とも、この人なら信頼して命をお任せすることができそうだ、ここで産もうと決めていました。

冬が近づき、隣町にアパートを借りました。そのうち康乃先生に自宅出産を勧められました。最初は特別なことのように、何となく恐いような気もして踏み切れずにいましたが、先生のお住まいはわが家の目と鼻の先で、近くに総合病院もあるし、安全という点ではそう変わらないのではないかと。かえってリラックスできるし、夫とも一緒にいられる、と自宅出産に踏み切ることにしました。待ちにまったお産は予定日の翌日、朝9時頃、破水から始まりました。今日か、遅くとも明日中には生まれると、ワクワクした気持ちでいっぱいでした。まさか延べ5日間にわたる長い道のりを歩むことになるとは思ってもみないことでした。

4日間半かかった出産

破水1日目(3月31日):破水後、しばらくして生理痛のような軽い陣痛が始まり、午後には10分間隔に、そして夕方には5分間隔に。先生が往診に来てくださったが、お産は明日の昼頃になるだろうとのこと。羊水が出続けているので、横になっているように、そして夫には3時間ごとに心音をチェックするようにといい、帰られる。

2日目(4月1日):陣痛は、強くなったり弱くなったり。間隔もまちまち。夕方の内診で、子宮口は、まだ2、3cmの開きと分かる。内診以降、胎動に合わせた強い収縮の波が次々に押し寄せ、いよいよ今晚だと、呼吸法に専念。しかし、康乃先生には「強いいきみが来て、肛門が10円玉の大きさに開いたら電話して」と言われていたのに、いきみ感が訪れない。そして、そのまま夜が明けていった。

3日目(4月2日)=間延びする陣痛。そして相変わらず流れ続ける羊水。破水さえしていなければ、お風呂に入ったり、歩き回ったりできるのに。午後の内診で、子宮口の開き5cm。血圧測定して「今日は生まれません」と康乃先生。「のんびり気長にいきましょう」と言われる。一体いつになったら産まれるのか。それでも、「出口のない出産はない」とか「明けぬ夜はない」と言い合いながら、気を取り直す私たち。

4日目(4月3日)=いつのまにか、子宮口が全開大に。「今晚には産まれるでしょう」と先生。やっと出口が見えてきた。でも喜ぶのはまだ早い。はしゃぐ私に「マラソンにたとえると、まだ35km地点。これからが大変だ」と、夫の一言。そして、やっぱりそのとおりになってしまう。この日は夜中、康乃先生が来て下さり、夫と交替して、一晩中腰をマッサージして下さったが、お産には至らず。またしても夜が明けてしまった。

5日目(4月4日):昨夜からの腰の痛みがつらくてどうしようもない。どこまで体力が持つか。にもかかわらず、相変わらず流れ続ける羊水と間延びする陣痛。いよいよ先生に「促進剤をほんの少し打ってみようか」と言われるが、どうしたものか判断ができず黙っていると、「ここまで来たのだから、最後まで赤ちゃんのペースでいきましょう」と先生。すると程なく、いい収縮の波が訪れ、スムーズに排臨、発露、出産。

5日目の夕方にしてようやく、新しい生命の誕生を迎えた、ゆっくりゆっくり生まれてきた赤ちゃんは、とてもきれいな体をして、泣きわめきもせず、何と穏やかなことか。先生が帰られた後、親子3人で川の字になっていた時の、あの何とも言えない幸福な時間は、一生忘れられないでしょう。ぜいたくないいいお産でした。

この5日間、全く不安はなかったかと言えば嘘になりますが、そんな時は夫に心音をチェックしてもらい、心を落ち着かせていましたし、何よりも信頼する康乃先生の笑顔が私たちを安心させてくれました。それにしても、ずっと側にいて私を支え、不眠不休で腰をさすってくれた夫。共に命に向き合い、一緒に悩み、喜んだ5日間、本当に2人で産んだような気がします。また、最後まで私たちの意を汲み、自然なお産に徹して下さった康乃先生。「待つこと」がどれほど勇気が要り、大変なことであるか。先生には本当に感謝しています。

そして、最後まで羊水も濁さず、元気な心音を聞かせてくれた赤ちゃんに感謝。微弱陣痛ではありましたが、自分自身のダメージもほとんどなく、自宅出産ならではのぜいたくな、最高にいいお産でした。また、最後まで、自分の力で自然なお産ができたということが、大きな自信につながりました。康乃先生、これに懲りずに次回もぜひ、よろしく願いいたします。